

令和 8 年度浜松市社会福祉審議会

第 1 回高齢者福祉専門分科会会議録

- 1 開催日時 令和 8 年 7 月 2 4 日（金）午後 3 時 3 0 分から午後 4 時 3 0 分
- 2 開催場所 浜松市役所 北館 1 階 1 0 2 会議室
- 3 出席状況 委員（9 名）
 斎藤 誠（浜松市自治会連合会 理事）
 小木野 安孝（浜松市ボランティア連絡協議会 副会長）
 中村 公彦（社会福祉法人浜松市社会福祉協議会 常務理事）
 坂井 久司（浜松市民生委員児童委員協議会 副会長）
 水谷 秀夫（浜松市社会福祉施設協議会 副会長）
 藤島 百合子（一般社団法人浜松市医師会）
 稲川 和代（公益社団法人静岡県看護協会 西部地区支部 支部長）
 江口 晶子（聖隷クリストファー大学 教授）
 丸 英之（浜松市議会）
- 事務局（1 0 名）
 健康福祉部 新谷部長
 福祉総務課 竹村担当課長
 介護保険課 谷口課長、近藤課長補佐、伊藤 G 長
 高齢者福祉課 亀田課長、大石課長補佐
 中野 G 長、山村、久米
- 欠席委員（1 名）
 中条 操（浜松市老人クラブ連合会 会長）
- 4 傍聴者 0 名
- 5 議事内容 (1) はままつ友愛の高齢者プランの事業実績について
 (2) 次期プラン策定に伴う実態調査の結果報告について
- 6 会議録作成者 高齢者福祉課 生きがい・長寿政策グループ 山村
- 7 記録の方法 発言者の要点記録 録音の有無 ☒ 有・無

8 会 議 記 録

- 1 開会
- 2 健康福祉部長挨拶
- 3 新任委員の紹介
事務局から稲川委員、丸委員を紹介
- 4 会長挨拶
- 5 議事

(水谷会長)

本日は非公開情報を審議する予定がないため、公開としたいがよろしいか。

(異議なし)

(1) はままつ友愛の高齢者プラン事業実績について

(水谷会長)

(1)のはままつ友愛の高齢者プラン事業実績について、事務局から説明願いたい。

(亀田高齢者福祉課長)

資料に基づき計画値及び実績について説明

(水谷会長)

事務局から説明されたが、何か意見や質問はあるか。

(丸委員)

咀嚼できないことが認知症につながると聞いており、口腔ケアの重要性が増していると考えている。口腔ケア・栄養改善支援事業の延実施人数が減少していることについてどのように捉えているか確認したい。

(亀田高齢者福祉課長)

これまで年2回事業を実施していたが、委託先との調整により年1回に実施回数を変更したため、延実施人数が減少したものの。

(坂井委員)

避難行動要支援者の個別避難計画の作成について、令和7年度実績で83.9%となっている。自身の実感と実績値に乖離があると感じたが、この実績値は具体的にどのような数値か。

(亀田高齢者福祉課長)

自治会への情報提供に同意した市民の名簿を作成し、その名簿に掲載された市民のうち個別避難計画を作成したとされる人数を実績値としている。名簿に掲載されていない市民は分母に含まれないため、実態と乖離があるように感じられたものとする。

(水谷会長)

地域包括支援センターの相談件数が大きく増えている。

どのような相談が増えてきているのか。

(亀田高齢者福祉課長)

身寄りのない人からの相談や、高齢の親と障害をもった子などの複合的な課題を抱えた相談が増えてきている。

(2) 次期プラン策定に伴う実態調査の結果報告について

(水谷会長)

(2)の次期プラン策定に伴う実態調査の結果報告について、事務局から説明願いたい。

(亀田高齢者福祉課長、谷口介護保険課長)

資料に基づき実態調査の結果及び計画策定スケジュールについて説明

(水谷会長)

事務局から説明されたが、何か意見や質問はあるか。

(斎藤委員)

実態調査で把握した課題を解決できるような計画が策定されるとよいと感じた。

(中村委員)

身寄りのない人やひとり暮らしの高齢者は頼ることができる人がおらずに困ることが特に多いと考える。そのような困りごとをすくい上げられるような計画を策定してほしい。

(丸委員)

実態調査について、前回の調査から標本数が減少している(前回:3,000 今回:2,000)。どのような理由からか。

(亀田高齢者福祉課長)

予算の範囲内で調査を行うために標本数を削減した。統計に必要な標本数は確保している。

(丸委員)

他市の事例を参考に、介護ロボットの導入に力を入れてほしい。耳の聞こえと認知症の関係性が謳われているなかで、補聴器購入費の助成について今後も継続してほしい。

(坂井委員)

重点施策として地域共生社会の推進を挙げている一方で、実態調査の結果において、地域住民による支え合い活動に「参加したくない」と回答した人が半数を超えている。参加を望まない理由について分析していたら教えてほしい。分析していない場合は、今後分析することを検討してほしい。次期プランにおいても大きな柱になると考える。

（亀田高齢者福祉課長）

今回の実態調査では回答の理由に関する問いを設けていないため、統計的には分析できていないが、仕事をしているため地域の活動に参加する時間がないといった理由を想定している。

地域共生社会の推進のためにはこのような層を巻き込むことが重要であり、どのように地域の活動に参加してもらうかを課題として認識している。

（小木野委員）

地域の活動に参加したいと思ってもらったり、関心を持ってもらったりするための働きかけが重要ではないか。

（江口委員）

浜松市は市域が広いため、地域によって課題が異なると考える。実態調査の結果について、区や地域ごとに分けた分析はしているか。

その他にも、例えば、介護を理由に離職した人の年代を見るなどの分析をすると、対策を考えるための参考になると考える。

（亀田高齢者福祉課長・谷口介護保険課長）

回答者には居住区について聞いているため区ごとの分析は可能。現状、各設問について詳細な分析が不足しているため、今後分析し、次期計画策定に活用していく。

（水谷会長）

介護ロボットの導入が求められる一方で、実態調査の結果では介護ロボットではなく人の手で介護を受けたいという人も多い。このような意見も施策に反映してほしい。

（谷口介護保険課長）

今後の介護ロボットの導入に対する支援事業の参考とする。

（水谷会長）

それぞれの立場からの貴重なご意見をいただいた。以上で議事を終了する。

6 連絡事項

7 閉会